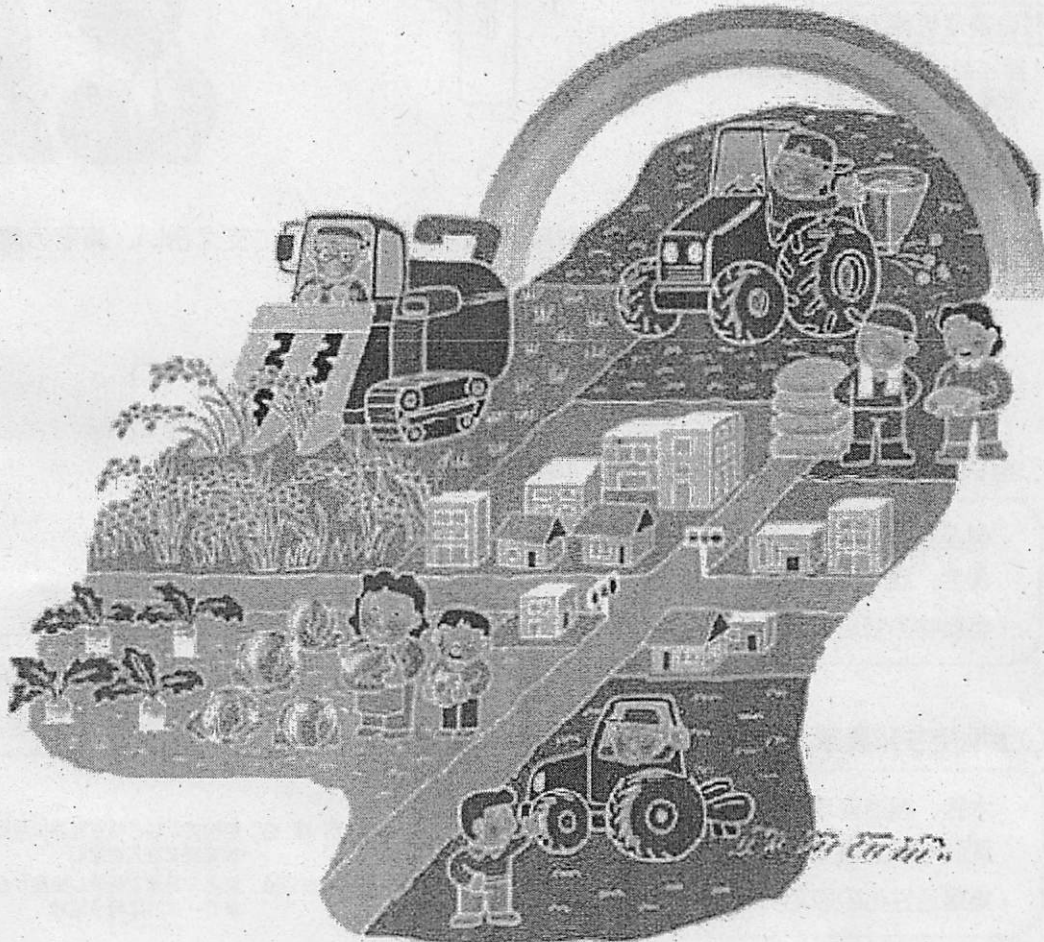


今、みんなで話し合おう！ 地域の農業、集落の将来を!!



このままで農業経営が続けられるのか、集落の農地が守れるのか、集落のコミュニティは維持できるのか、誰もが心配されているところです。

このような不安を解消し、明るい展望を見いだすには、何よりもまず、そこに住む人々が、自ら地域の農業、集落の将来を考えることが大切です。

今、求められるのは、集落の将来のために、集落の住民みんなが話し合い、目指す農業、農村の姿をみんなで描き、その実現に向けて取り組んでいくことです。（「策定にあたって」より）

集落の話し合いに基づいて、担い手をはじめ、集落の農業者と住民が互いに支え合い、地域農業の持続・発展と農による地域再生を目指す活動を実践されることを願い、「地域農業戦略指針」を策定しました。（滋賀県農政水産部地域農業戦略室）

地域農業戦略指針で目指す農業・農村の方向

滋賀県の農業・農村の現状

稲作経営の悪化

- 米価の低迷が続き、収益が低下
- 国の農業政策に農業者の不安の声
- 大規模経営農家の規模拡大に限界（農地の分散、水路・農道等の管理）
- 集落営農組織の停滞（参画意識の低下、役員等のなり手不足）

農村の集落機能の低下

- 農家数の減少、農業従事者の高齢化
- 農業への関心の薄れ

農業・農村の弱体化

今、対策を講じなければ、さらに・・・
 荒廃農地の発生、拡大
 共同活動の崩壊
 美しい田園風景の喪失
 伝統ある農村文化の衰退
 を招く懸念



県が目指す農業・農村の将来の姿

目指す姿

「担い手、小規模農家、土地持ち非農家、地域住民がともに支え合い、集落の農地がしっかりと守られ、人々がいきいきと生活している」

農業の持続・発展、活力ある農村に向けた関係づくり

○担い手（個別経営、集落営農組織[※]）の役割

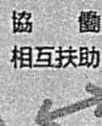
- ・健全な農業経営の展開により集落農地の保全、雇用機会の提供に貢献
- ・特産物の栽培をけん引

○土地持ち非農家、地域住民の役割

- ・水路、農道管理に参加し担い手の経営を側面的に支援
- ・集落活性化の取組に参加

○集落の役割

- ・人材や資源を活用し、活力ある農村に向けた取組の推進



※個別経営：規模拡大など経営発展に意欲的な農業者で法人を含む
 集落営農組織：集落の農家で構成し生産から販売まで一体的に行う組織

目指す姿にむけて

これまで、農村集落が培ってきた協働、相互扶助の精神を生かして農業の持続と集落の活性化を一体的に進めます

農業の持続発展に向けた集落の取組

- ① 集落に支えられた個別経営の展開
- ② 集落営農組織の発展
- ③ 集落営農組織と個別経営の連携強化
- ④ 集落外部に基幹作業を委託し集落農業を継続

活力ある農村に向けた集落の取組

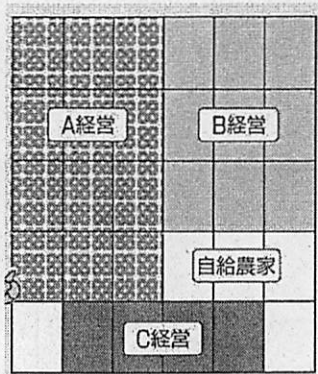
- ① 地域住民の参加による水路や農道を維持管理する共同活動
- ② 農業を通じた地域住民の交流
- ③ 地域資源を活用した農村の活性化
- ④ 女性や若者、多様な人材の活用

目指す姿の具体例

農業の持続・発展に向けて

①個別経営への農地の集約

○農地の利用調整で農地を面的に集積



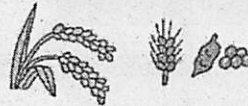
- ・個別経営ごとに農地を面的に集積
- ・地域住民が水路、農道を管理

②集落営農組織の体制強化

○若者や女性など多様な人材の活用で営農組織を活性化

集落農地の全面経営

水稲、麦、大豆に加えて
戦略的な作物(特産品)の導入



園芸品目
そばなど新たな生産

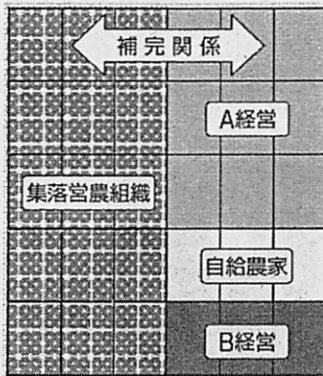


加工・直売など新たな取組

- ・円滑な世代交代の仕組みづくり
- ・法人化による経営意識の向上
- ・若者、女性の参画
- ・戦略的な作物選択
- ・複合化、6次産業化による新たな取組

③集落営農組織と個別経営の連携強化

○農地集約化と機械作業の相互補完で双方が効率化



- ・集落営農組織と個別経営の農地を交換分合しすみ分け
- ・相互が作業受委託、期間借地で経営を補完

④集落外部に基幹作業を委託し集落農業を継続

○水田基幹作業を集落外部の担い手（農業サービス事業者等）に委託し、日常管理は集落で実施

農業サービス事業者等へ作業委託

- ・作業効率化のため集落で調整
- ・集落内農家が肥培管理

特産物づくり

- ・隣接集落などと広域で作業委託ができる仕組みを作る
- ・条件不利水田は採算性に乏しく担い手が現れないため、作業委託で受託者の収益を確保し、日常管理等は委託集落が共同作業で行う体制を作る
- ・集落外に住む集落出身者が、草刈や水路、農道管理に応援に戻る体制を考える

活力ある農村に向けて

①地域住民の共同活動

○農業や共同活動を通じた地域住民の交流

農業を通じた地域住民の交流



地域住民の参加による共同活動



- ・子供、女性、高齢者までの交流が深まる取組の実施
- ・世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策の活用

全ての集落に必要な取組

②地域資源を活用した農村の活性化

○集落の地域資源を特産づくりや観光資源として活用し、地域がにぎわい、うるおう

特産物の生産



都市農村交流



- ・外部（大学、NPO、専門家等）との連携（ワークショップ、地元学等）
- ・地域資源の発掘と活用方法の検討
- ・若者、女性、高齢者などの人材活用
- ・担い手が特産物の栽培をけん引

集落での実践に向けて

1 関係者による共通認識と方向付け

①関係機関・団体の意思統一

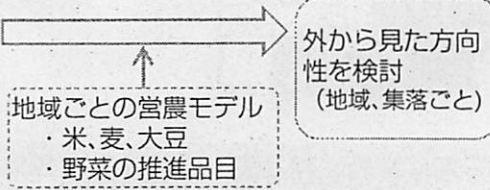
米価の下落、政策変化（生産調整見直し等）等を踏まえ、市町、JA、県等関係機関・団体が一体となって、地域農業の振興のため取り組んでいこうという意識の醸成・意思の統一

②関係機関・団体の推進体制の整備

集落、地域に対して働きかける推進母体（旗振り役）・・・（仮称）戦略推進会議

③関係者による現状分析・地域の将来方向の検討

【データ整理】・・・経験と勘を裏付ける
 (生産) (集落活動)
 ・担い手の状況 ・世代をつなく農村まるごと保全向上対策
 ・生産調整の状況 ・獣害
 ・耕作放棄地 ・中山間地域等直接支払



④取組の気運の醸成 農業組合長会議等で趣旨説明

⑤対象集落・地域の絞り込み

- 【対象】
- 改善意欲のある集落
 - 課題が表面化している集落
 - 今後、課題が生じると予想される集落

2 集落リーダーの育成

- ①リーダー（キーパーソン）とは
- ②リーダーの発掘
- ③リーダーのフォロー

【事前知識】

- ・集落の人の構成
- ・集落の気質
- ・集落の抱える課題
- ・農業組合の状況
- ・担い手、共同活動等の状況



3 集落での実践

- ①現状把握・課題整理
- ②目指す姿を描く
- ③集落での合意・実践

◇誰がどのように農業を担い、集落の農地を守るのか？
 ◇活力のある農村をどう創るのか？
 ◇集落や住民でできること、すべきことは何なのか？



実践のための手引き

集落の活動・実践に役立つ具体例を豊富に掲載

- 目指す方向ごとに課題解決の手順
 (担い手への農地のまとめ方、集落営農組織の発展の仕方 など)
- 1.2の優良事例の優れた点と成功のポイント

